

## 令和4年度 第2回焼津市図書館協議会会議録

1 開催日時 令和5年3月22日(水) 午後2時30分～午後3時40分

2 開催場所 焼津市立焼津図書館研修室

3 公開可否 可

4 傍聴者 1名

5 出席者 (委員)

岡本康夫 委員

青野招子 委員

石田智子 委員

岩崎茂野 委員

大畑涼子 委員

桑原光子 委員

田坂由貴子 委員

保科洋子 委員

村松晶子 委員

(事務局)

小池 図書館課長

成岡 焼津図書館担当主幹

守屋 大井川図書館担当係長

永井 焼津図書館担当主事

## 6 次 第

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

① 令和4年度図書館利用状況、及び、令和4年度焼津市立図書館事業概要について

② 令和5年度焼津市立図書館事業計画について

(4) 閉会

## 7 内 容 (要約)

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

○会議の成立について

事務局：それでは、ここから議事に入らせていただきます。只今出席されている委員は、9名中9名で全員であります。焼津市図書館条例施行規則第14条第2項の規定により、本会議は成立しております。会議の終了時刻は概ね15時30分を目安とさせていただきます。なお、本日この会議での委員の皆様の発言につきましては、会議録として図書館のホームページに掲載されますことを、ご了解いただきますようお願いいたします。それ

では、ここから議事に入らせていただきます。図書館条例施行規則第13条第2項の規定により、これ以降の議事の進行を岡本会長にお願いします。

① 令和4年度図書館利用状況、及び、令和4年度焼津市立図書館事業報告について

議長：それでは、議事に入ります。令和4年度図書館利用状況、及び、令和4年度焼津市立図書館事業報告について、一括して事務局の報告を求めます。

事務局：それでは、令和4年度の焼津図書館・公民館図書室の利用状況について報告いたします。お手元の資料1ページをご覧ください。初めに、(1) 図書館ホームページアクセス件数についてですが、令和4年4月から令和5年1月末までの期間で、103,263件となっております。次に、(2) 図書館の利用状況をご覧ください。全館合計の個人登録者数は、58,558人です。焼津図書館の利用状況については①の表をご覧ください。開館日数は242日、貸出者数は89,410人、貸出点数は337,509点、来館者数は120,235人です。前年比につきましては右端の比較の列をご覧ください。貸出者数、貸出点数、来館者数ともにやや減少となりました。今後については、講座・イベントの開催をとおして、図書館への来館のきっかけづくりをしたり、出前講座を実施し来館を促したりして、利用拡大に努めてまいります。②大井川図書館分は、後程、館長からご報告いたします。公民館図書室の利用状況については、次の(3)をご覧ください。4年度の貸出者数は9,714人、貸出点数は26,219点です。前年度と比較しますと、やや減少となりました。予約の本について、公民館で受け取りを希望される方も増えており、図書館では、折に触れ、居住地に近い公民館図書室の利用について、引き続き利用者にPRしてまいります。公民館図書室の蔵書については、担当司書が利用状況を踏まえて配本、資料の入れ替えを行ったり、図書室内の本の配置を利用状況に合わせて工夫したりし、地域の読書活動の推進を図りました。次に、資料の2ページをご覧ください。(4) 自動貸出機の利用状況についてです。令和3年11月に導入した自動貸出機について、親しみを感じてもらえるよう愛称「かりるん」と名付け、子どもから大人まで利用を推奨しています。昨年度の「かりるん」での貸出状況は、焼津図書館では33%、大井川図書館では45%の方にご利用いただきました。自動貸出機の利用率については増加傾向にあり、今後もより多くの方に利用していただくよう、貸出カウンターでの声掛けを継続していきます。焼津図書館、公民館図書室の利用状況については以上です。引き続き、令和4年度の大井川図書館分の利用状況および事業概要の報告をいたします。1ページの(2) ②大井川図書館の表をご覧ください。左側が今年度の令和4年度、右側が昨年度の令和3年度で、どちらも4月から1月末までの数値です。令和4年度は、開館日数は241日、貸出者数は3万2,210人、貸出点数は13万6,755点、1日平均の貸出者数は134人、1日平均の貸出点数は567点、来館者数は5万3,552人でした。貸出者数については増、貸出点数については減となりました。来館者数が大きく減って86%になっていますが、体感として大きく減少したという実感がないので、これは予想になりますが、来館者数を数えるカウンターを令和3年11月より新しいものに変更したため、その影響もあるかと思えます。今までのものはオン、オフするスイッチがなく、休館中に行うメンテナンスの人の出入りをカウントしてしまっていたのですが、令和3年11月からは厳密に開館中のカウントになっていますので、それが86%という数字になっているのかもしれませんが。

次に、令和4年度の事業について報告いたします。資料3ページの2をご覧ください。初めに焼津図書館から報告いたします。参加者数については1月末現在で集計しています。焼津図書館では、子ども向けの講座、事業を20件企画し、1月末現在で18件実施しました。昨年度より新規事業として実施している7番「大富びよびよっこおはなし会」は、5番、6番にありますおはなし会同様、本日出席されている大畑委員を始めとした、市の子育て支援課子育てコンシェルジュに御協力いただき、実施しました。昨年度は新型コロナウイルスの影響で開催が中止となった月もありましたが、今年度は中止することなく実施しており、参加人数も増加傾向にあります。読書活動を支援することと共に、図書館へ足を運ぶきっかけとなるよう、図書館以外の場所でのおはなし会を大切にしたいと考えております。次に、資料の4ページをご覧ください。18番の「てづくりオーナメントワークショップ」では、昨年度に引き続き、ターントクルこども館と共催し、クリスマスにちなんだ読み聞かせと工作を行いました。ターントクルこども館については、図書館職員を派遣し研修を実施したり、1階に図書館用ブックポストを設置し、図書館利用者が「えほんと」に来館するように工夫をしたりしています。今後も継続して連携を図っていきます。また、19番「英語の絵本講座 はらぺこあおむしと遊ぼう」と20番「春休みサイエンス講座 音であそぼう」は、昨年度企画していましたが新型コロナウイルスの影響で中止となっていた講座で、今年度実施・企画しています。それぞれの講座については、講師の説明が参加者の学びの一助となるようにすることと同時に、開催時間中に、職員が関連する図書を紹介し、読書普及に努めています。次に、4ページ21番以降の、大人向けの講座・事業についてです。大人向けの講座・事業は9件企画し、1月末現在で6件実施しました。新規事業の図書館講座として、23番「城と水運から郷土の発展を考える」、資料5ページに移りまして25番の「苔テラリウムを作ろう」、26番「パパのよみきかせ講座～わらべうたから あかちゃんえほんへ～」、27番「子どもを伸ばす“対話の力”～ポイントは「言葉」と「傾聴・承認」～」、29番「東海道の「食」に学ぶ」を開催しました。文学以外の内容の講座も積極的に開催し、どの講座でも、関連図書を併せて紹介することで、図書館資料の利用に繋がりました。30番「ブックリサイクル」については、毎年たいへん人気がある事業ですが、令和3年度から引き続き、参加者同士が密にならないよう事前参加申込制とし、参加人数を限って実施しました。焼津図書館については以上です。続きまして令和4年度の大井川図書館の事業報告です。5ページをご覧ください。大井川図書館では、子ども向け事業を15件、大人向けを5件、その他事業を2件企画・実施しました。その中で主なものをご説明いたします。児童向けの事業としまして、2番の「乳幼児おはなしのへや」、3番の「幼児・児童おはなしのへや」の読み聞かせを、コロナで中止ということがなく年間通して開催しました。感染症対策として時間短縮をして実施しております。また、10番の「図書館カプセル」は新規事業で、職員が段ボールで、カプセルトイマシンを作成し、本を借りたお子さんにマシンを使ってもらいました。ちょっとした景品、やいちゃんの缶バッジなどを入れてプレゼントしました。大変好評で、お子さんにも喜んでいただきました。次に大人向け講座の16番「家庭菜園のコツ、教えます」は、元々令和4年3月に開催予定でしたが感染症拡大のため延期となり、5月に開催しました。講座自体は好評でしたが、農業の講座のため季節が重要ということで、3月に開催した方が良かったとの意見を頂きましたので、今年度は19番、本日3月22日午前中に開催しました。白熱した講座となりまして、

終了時間を超えても参加者が講師に質問をしていました。大井川図書館については以上です。両館共通の事業につきましては8ページをご覧ください。8番の「出前講座の実施」については、5回実施しました。公民館等に職員が出向き、読み聞かせや乳幼児向けの本の紹介等を行うことにより、本への興味や新たな図書館利用者の獲得につながればと実施しております。今年度、大井川図書館では小学校図書室へ出向き、図書室のボランティア向けに、本へフィルムコートの貼り方のレクチャーなどもしました。また、この表は1月末の集計なので件数に入っていないですが、3月に「ターントクルこども館 えほん」とのボランティアの方々に、絵本の読み聞かせについて説明する活動もいたしました。14番の「図書館ボランティア活動事業」では、事前に登録いただいたボランティアの方に、年間通じて図書館の業務をお手伝いいただく事業です。返却本を棚に戻していただくことや整頓が主な活動ですが、例えば13番の「福ぶっくろ」で使用する本を入れる紙製の袋を作っていたり、除籍資料を市民に配布するブックリサイクル事業用に本にシールなどを貼っていただいたりするなどイベント準備のお手伝いをしていただいています。以上が令和4年度の事業の報告ではありますが、実は今年度は、焼津図書館が開館100周年、大井川図書館が30周年を迎えた記念の年でしたので、9、10ページをお開きください。この通り記念事業を特別に開催いたしました。はじめに両館で記念式典を両館で開催し、岡本協議会長にご臨席いただきました。また両館共通事業として、「図書館のあゆみパネル展」を巡回展示したり、各館でそれぞれ表のとおり事業を集中して開催しました。両館で揃ってたくさんの事業を開催することで、記念事業を盛り上げました。以上で令和4年度の事業報告を終わります。

議長：事務局の説明は終わりました。質問やご意見のある方がありましたらお願いします。

青野委員：図書館の利用状況ですが、登録者数が約5万8千人、貸出者数が両館で約12万人、来館者数が両館で約17万人で、登録者は約3分の1となっていますが、これは家族でカードを1枚登録していて、子ども達用に家族で借りていくという形のためこのような数字になっているのでしょうか。

事務局：来館者数については、本を借りる方以外に、調べ物や新聞を読むなどのために図書館を利用する方があり、登録しなくても図書館を利用する方も多いということです。

青野委員：公民館での貸出は、図書館に遠い人でも手軽に借りられてありがたいと思います。大富公民館と和田公民館でのおはなし会がありますが、この場所で実施する意味は何でしょうか。

大畑委員：私は、子育てコンシェルジュとして、その事業に関わらせていただいています。和田公民館のリニューアルの時に、子育て支援施設が地域に無いということで要望があったと聞いています。公民館に子育て支援施設を設置するほどの子育て世帯が地域に少なく、職員が常駐すると、子育て世帯が多いところのサービスが減ってしまうので、月に1回行くことになりました。お母さん達に来ていただくには目玉になるものを実施したいと考え、触れ合い遊びをしたりおもちゃを作ったりし、それらを通じて、親しくなると育児の相談をしていただけるようになる。そういったことを目的で始めました。大富については、以前はイオンで相談会をやっていましたが、子どもはゲームで遊び、お母さんは相談するということになり、場所が合わないということで、大富地区も支援サービスが空洞の地区であり、子育て世帯が多いことから、公民館に相談し実施すること

になりました。図書館の職員が出向いて来て絵本を読んでもくれるということは、やはり参加する方の受け止めも違うので、図書館に協力をお願いして始めました。最近では、参加者が多くなってきているので、子どもの部屋から和室に部屋を変えて実施しています。令和5年度も引き続き実施したいと思います。子育て支援センターではなく、自宅から近くの公民館だから行きたいとか、人が多いところが苦手なお母さんは、人の少ない時間帯にそういうところへ行って相談したい、という方もあります。どちらかというところと和田地区にそういう方が多くて、大富は新規の方が増えています。図書館と一緒に実施して本当に良かったと思います。焼津市総合福祉会館でも実施していますが、開催日は来館される方が多いです。お話の間、子どもが自由に動いてもいいというのがお母さん達にいいみたいです。2、3か月の赤ちゃんを連れて来る方もあり、小さい時から絵本に親しませたいということですね。身近なところから普及させていただくと思います。目に見える効果が出てきて、どんな本がいいか私達も聞かれ、サポートルームに置いてある本を見てもらいます。ブックスタートと自分が持っている本がかぶってしまった方のお話を聞きましたので、後でどんな本を配っているのか教えてください。

事務局：委員からお声掛けいただき、図書館司書を派遣しています。図書館の利用については、お母さんに遠慮があり敷居が高いと感じる場合があるようですが、公民館などのおはなし会ではそういった敷居が下がったように感じて参加される方もあるのかと思います。開始したばかりの頃は参加者が少なく心配でしたが、最近は増えて安心していきます。来年度もよろしくをお願いします。

青野委員：自動貸出機の利用ですが、大井川図書館は「貸し出しは機械でどうぞ」という感じがしますが、焼津のほうは入ったところに人が並んでいるので、人での貸出が中心で、急ぐ方が自動貸出機を使うのかなど。焼津の利用率が大井川に比べ低いですが、何か違いはあるのでしょうか。

事務局：焼津でも自動貸出機を利用させていただきたいですが、自動貸出機は一度に処理できるのが10冊までという制限がありますが、家族で来館してたくさん借りる方は時間がかかってしまうので人の対応する窓口にいらっしゃるのではないかと考えられます。また、予約資料の受け取りも多く、予約資料は窓口のみで貸し出しているのが窓口にお越しになる方も多いのかと考えています。自動貸出機は簡単に操作できる機械ですので、館内表示を工夫する等して、今後も利用促進を図ってまいります。

村松委員：通常の業務を行いつつ記念行事も実施していただき、また、コロナ禍での実施はたいへんだったと思います。多言語読み聞かせを実施されていましたが、英語やポルトガル語など日本語以外の蔵書は何冊位あるのでしょうか。

事務局：手元に資料がありませんので、後程回答します。

村松委員：焼津市では外国にルーツを持つ人達が増えていると伺っているので、こういった読み聞かせとか蔵書が重要になってくると感じています。もう一点、アシストサービスのデイジー図書の貸し出しですが、必要な方に情報が届いているのか、利用状況などを教えてください。

事務局：デイジー図書は、令和5年3月14日までの集計で、延べ48人に、236点を貸し出しました。利用申込については、図書館の音訳ボランティアが、対象の方に普段から接

している中で声を聞き取り紹介いただくことがあり、登録は徐々に増えているというところでは。

村松委員：特別支援学級や特別支援学校などへの働きかけは如何ですか。

事務局：その点については今後の検討課題です。

保科委員：来館者数ですが、ターントクルこども館ができ、そちらを利用するというところで減っているという事はありえると思うのですがいかがでしょうか。図書館で色々な生懸命やられてて、来館者数が伸びていないのはそういったことがあるのかと感じました。もう一点は、和田や大富公民館で行っている事業が成功しているというお話ですが、他の地区でも需要はあるのではないかと感じました。やれるやれないは別として、そこに人を付けて事業が実施できたらいいなと感じました。

大畑委員：豊田地区は今後公民館が新しくなり、子どもが遊ぶ場所が設置されていくのではないかと思います。今は、子育て支援サービスが薄い地区に行っていて、行かないところは近くに保育園の子育て支援センターがあるのでそこで代わりが出来ており、私達がやっているサービスが受けられると思います。他の公民館でも、例えばさくら保育園などは月1回で港公民館に出向いて支援センターの活動をしているので補えていると思います。人を増やしていただいて、身近なところで草の根みたいに活動が出来れば手厚い育児支援かと思えます。

青野委員：本の利用以外に、体験できるものを色々考えていただいていると感じました。私もいくつか参加させていただきましたが良かったです。館内見学もさせていただきましたが、本が増えて一杯になりたいへんだと思いました。ブックリサイクルで皆さんに還元していると思うのですが、廃棄する本は何年前の本とか、何か基準が決まっていますか。図書館によっても考え方が違うのでしょうか。

事務局：焼津では7、8年の保存年月が経過した本や、改訂版が出たものを除籍していますが、一律に廃棄するのではなく、地域の本や貴重な本、保存すべき本は廃棄していません。読み継がれている絵本が傷んでくれば同じ本を買い直ししており、図書館での利用は耐えられなくなったけれども、ご家庭ではまだ利用できると思われる絵本はブックリサイクルに出しています。大井川図書館では、基本的に同じですが、保存のためのスペースに余裕があるので、無理してブックリサイクルのために廃棄するのは本末転倒ですので、図書館がお客様に自信をもって提示できない位古いものを中心に、除籍しています。また、旅行雑誌のように定期的に刊行されている本は、新しい年度の物でも除籍しています。

青野委員：学校関係者もいらっしゃるのでお聞きします。朝読書とか、学校で図書館を利用する時間は減っているのでしょうか。

石田委員：私の勤務する豊田中学校の話ですが、毎日朝読書は10分間やっております。市内の学校の状況を聞きますと、1人一台タブレットが配布され、朝読書の時間をタイピング練習に充てたり、基礎学力の定着に計算問題をやったりとか英語の単語ドリルをやったりとかという話もありますが、読書の時間は無くさないという方針の学校もありますので、そこはまちまちかと。私もこういう立場でおりますので、読書の時間は死守していきたいと思っています。図書館を使った授業は一頃に比べると少なくなっていると

感じます。タブレットの導入によって、調べ学習をするのであればインターネットにつながっているタブレットでというのが主流かと思います。私は国語の教員ですので、夏休みの前に読書会を授業として行って、本と子どもをつなげる、そして感想文につなげるということもやっております。全く図書室から切り離されて、という学校もあるかと思いますが。教員の意識に差がありますが、私は死守していきたいと思っています。

青野委員：学校や公共の図書館で、本を紹介するというのも一つですね。自分の興味がどこにあるのか。虫の本といっても、絵本、図鑑、色々あるんですよね、最初に興味持ったところからでいいと思いますが、絵本から離れられない子には昆虫記を紹介するなどすると、だんだん字を読みながら読むようになる。図書館にも季節によって本が展示してありますが、幼児用、低学年用、大人用など分かれていると手に取って確認できずし、見つけやすいなと思います。学校でも出前授業の時にブックトークをやってもらうと興味がわく子があると思います。

議長：他にご意見ありますか。無いようでしたら次に移ります。

## ② 令和5年度焼津市立図書館事業計画について

議長：次の令和5年度焼津市立図書館事業計画について、事務局の説明をお願いします。

事務局：令和5年度事業計画について報告いたします。資料11ページをご覧ください。初めに、焼津図書館についてですが、令和4年度に実施した事業の継続が主となります。講座については、参加者の興味関心の高そうな、時機にあったテーマを幅広い分野から選択し、今後実施していきたいと考えております。15番の「多言語読み聞かせ」については、令和4年度より新規で実施した常葉大学との連携事業となりますが、今年度の反省点を活かしつつ、大学側と調整しながら継続して実施していく予定です。また、16番の「ぬいぐるみおとまりかい」については、近年は新型コロナウイルスの影響で開催していませんでしたが、令和4年度は焼津図書館100周年事業の一つとして実施し、人気の企画となりました。新型コロナウイルス感染症対策を取りつつ、令和5年度も継続して実施していく予定です。焼津図書館については以上です。引き続き、令和5年度事業計画の大井川図書館分について報告いたします。13ページをご覧ください。大井川図書館でも、今年度の開催した事業を継続してまいります。具体的に決まっているものとしては、5番の「おいがわおはなしフェスタ」ですが、「こどもの読書週間」に合わせて、2日間で4回の読み聞かせを実施し、簡単な工作やパネルシアターなど楽しい催しを実施する予定です。書名がわからない状態で袋に入れ、メッセージカードを付けて借りていただくお楽しみ袋も用意します。いつも決まった分野の本を借りてしまいがちなお子さんも、予期しない本を借りることによって新たな本との出会い、新たなテーマとの出会い、そういうことが期待できるのではないかと思います。その他、毎年継続している事業を継続してまいります。大井川図書館については以上です。両館共通の事業につきましては14ページをご覧ください。1番の「焼津市子ども読書活動推進計画（第三次）の策定」とあります。現在施行中の子ども読書活動推進計画の二次計画が、令和5年までの計画であるため、次の3次計画の策定を進める予定です。2番以下は令和4年度に引き続き継続して行う事業です。以上で、令和5年度の事業計画についての説明を終わります。

議長：事務局から令和5年度の事業報告がありました。皆さんからご意見や要望がありましたらお願いします。

青野委員：「読書手帳」は、読んだ本のタイトルを機械からシール形式で印刷して貼っているものですね。

事務局：おっしゃる通りです。シールで貼ってもいいですし、家の本や学校から借りて読んだ本を手で記入してもいいです。

青野委員：「大人の読書手帳」も前に配布していましたがね。大人の利用者でもシールで出てくるのでしょうか。

事務局：図書館カードにパスワードを付けていただければ、どなたでもシールとして打ち出すことは可能です。焼津図書館100周年と大井川図書館30周年記念事業の際に、「大人の読書手帳」を配布させていただきましたが、それに限らず好きな手帳に貼っていただいてもいいと思います。

議長：他の方はご意見いかがでしょうか。なければ、私の経験をお話します。私は、焼津中央高校の学校評議委員をしています。生徒に対する高校のアンケートの中で「あなたは今までの一年間で本を何冊読みましたか」という項目がありました。高校生は自我を持っているので興味のある本を読むか読まないか自分で判断していると思うのですが、高校の方針では何冊読んだか、問いかけをするんですね。読書についての考え方として、ベースとして、文字を読んで基礎力を付けなさいというのが高校の教育に残っているということで感心したんですが、結果は、半分以上の方が数冊しか読んでいなかったのでもさみしく感じました。学校に対してレポートを提出する機会がありましたが、皆さんが本日おっしゃったような内容のこと、生涯、本と共に生活できるような人をつくってもらえたいへんありがたいということを書いて提出しました。図書館の事業報告でありましたが、本を提供するだけでなく、様々な講座を開催していらっしゃいます。今、旅行でも、ただ観光するだけでなく、触ったり体験したり、色々な食をしたり、観光の切り口が色々あります。図書館も同じように、色々な切り口で、色々な体験をさせるようなことを講座として開催している、たいへん良いことですので、令和5年度も引き続き色々な企画をしていただければと思います。それでは、ご発言もないようですので、以上で議事を終了し、進行を事務局に戻します。

事務局：閉会の前に2点ご報告いたします。初めに、先程ご紹介しました焼津図書館100周年記念事業の「大人の図書館員講座」ですが、元々は、以前にこの協議会の中で委員からいただきました、子ども向けだけでなく大人向けにも図書館講座を開催したらどうか、という提案を実現したものです。2点目は、村松委員から外国語の本の所蔵点数の御質問をいただきましたが、令和3年度の数字で恐縮ですが、絵本で約780冊、一般書で約370冊、児童書で約120冊、英文多読の本が約400冊など、合計約1,700冊所蔵していますので御報告します。先程ご紹介させていただきました常葉大学との共催事業「多言語読み聞かせ」の際に、学生にポルトガル語の本を読み聞かせをしてもらいましたが、読んだ後に学生がポルトガル語で話しかけましたら、日本語以外で話しかけられて参加者が驚いていた様子が印象的でした。焼津市は外国にルーツを持つ方が多く、また、人数も増えていると聞いています。来年度も常葉大学との共催事業を考えておりますが、

外国にルーツを持つ住民のことも視野に入れた図書館運営を進めていきたいと思ひます。

(4) 閉会